

T4 測定によるクレチン症のマススクリーニング

国立武蔵療養所神経センター 成 瀬 浩
百 瀬 妙

53年春より、MICROMEDIC社のCONCEPT-4 T-4RIAキットを使用し約25,000検体のガスリー検査後の血液濾紙を用いて、T-4（サイロキシン）測定によるクレチン症のマススクリーニングを、図-1のごとく行なった。

その結果、T-4異常値を示したものが、約400検体あり、うちTSH値も異常のものは0、TBG欠損症と診断されたものが3件あったが、クレチン症は1件も発見されていない。同一の検体を用いたTSH測定によるスクリーニングでは、TSH高値を示したものが3件あったが、その検体のT-4値は正常域にあった。

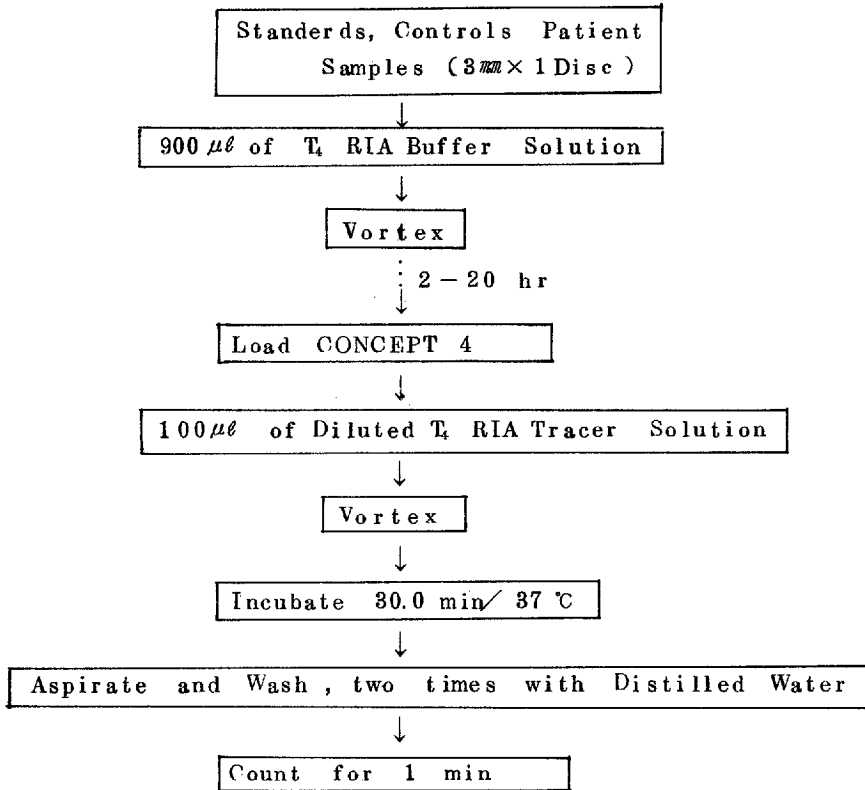
また、現在まで、Duplication Assayを行なってきたが、各々のAssayのMeanの値、S.Dの値等が、表-1のようであるので、Single Assayに切り変えることにした。

この方法は、検体処理能力がすぐれており一日に600検体は余裕を持って検査でき、その結果もその日のうちに得られること、技術者がIsotopを取扱う時間が短く、自動化がなされていることが、すぐれた点である。

一方、この方法の問題点は、Assay間の再現性があまり良くないこと、AssayのMeanの値が、他の方法のMean値より高く、補正を必要とすることがあげられるが、2つの点については、目下メーカー側と討議中であり、改良を加える予定である。

表-1 6 Duplicationでの相関

		Mean	S. D.	R	
A	12/19	① 12.03 ② 11.41	2.88 2.80	0.686	$Y = 3.41 + 0.67 X$
B	12/19	① 15.24 ② 14.26	3.93 3.66	0.737	$Y = 3.79 + 0.69 X$
C	1/26	① 16.68 ② 16.65	3.50 3.10	0.70	$Y = 6.28 + 0.62 X$
D	1/26	① 15.92 ② 15.45	3.38 3.50	0.65	$Y = 4.77 + 0.67 X$



先天性甲状腺機能低下症の早期発見に関する研究

千葉大学医学部小児科

中	島	博	徳
牧	野	定	夫
猪	股	弘	明
露	崎	俊	明
佐々	々	木	望
新	美	仁	男

1. クレチン症の全国実態調査

全国の医科大学、臨床研修病院、204施設に対し、昭和52年12月以前5年間に診療されたクレチン症につき、初診時年齢（治療開始年齢）、検査成績、病因、治療状況、治療後の身体発育、知能、学業成績、生活状況、など24項目に亘るアンケート調査を行った。

〔調査結果〕 204施設中、返信を戴いた131施設の中、クレチン症を診療した施設は99

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

53年春より、MICROMEDIC社のCONCEPT-4T-4RIAキットを使用し約25,000検体のガスリー検査後の血液濾紙を用いて、T-4(サイロキシシン)測定によるクレチン症のマススクリーニングを、図-1のごとく行なった。

その結果、T-4異常値を示したものが、約400検体あり、うちTSH値も異常のものは0、TBG欠損症と診断されたものが3件あったが、クレチン症は1件も発見されていない。同一の検体を用いたTSH測定によるスクリーニングでは、TSH高値を示したものが3件あったが、その検体のT-4値は正常域にあった。